



星の郷総合教室

No. 163

平成26年 1月25日発行

電話072-895-6230

明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひ致します

名前 _____

塾報受取日 _____ 月 _____ 日

星の郷教室 2月の予定

- 1月28日 1月度授業料引落日
(2月10日 引き落とし予備日)
- 1月26日 近畿珠算競技大会大阪府代
表選手選考会
- 2月9日 珠算1～3級・段位試験

☆2月9日検定について☆

- 2・3級…星の郷教室 午前8時
- 1級…北大阪会議所 午前11時20分
- 段位…星の郷教室 午前8時

当日は午前7時に教室を開けます。
自由に練習してください。1級は会場
に直接行ってください。時間に余裕を
持って行動してください。会議所まで
の行き方についての案内は教室にあり
ますので必要な方は申し出てください。
1級受験の中学生以上は生徒手帳
が必要です。

特別練習の予定と対象者

- 2月1日 午後5時～7時
 - アドバンスト・チーム (A-team)
 - 珠算1～3級・段位受験者
 - 西日本大会出場者

2月8日 午後3時～7時
(当教室生のみ)

※対象者は2月1日と同じです。

- 2月15日 午後5時～7時
 - アドバンスト・チーム (A-team)
 - 西日本大会出場者
 - 近畿大会出場者

- 2月22日 午後5時～7時
 - アドバンスト・チーム (A-team)
 - 西日本大会出場者
 - 近畿大会出場者
 - 暗算検定受験者

全国計算競技大会結果

1月19日 大阪府社会福祉会館
団体総合競技 3位 星の郷総合教室
(金本三夢 金本大夢 金本愛夢)

- 個人総合競技高校生以下の部
- 3位 金本 三夢
 - 6位 金本 大夢
 - 16位 金本 愛夢
 - 18位 大内 峻聖
 - 22位 大内 悠聖
 - 30位 岩成 海
- 読上算 4位 金本 大夢
- 種目別競技
- 除算 5位 金本 三夢
 - 乗暗算 2位 金本 大夢
 - 除暗算 5位 金本 三夢
 - 見取暗算 5位 金本 三夢

出席時間20時間以上の生徒

(1月20日までの1ヶ月)

岩瀬菜々香44 岡田亜瑠41 金本愛夢
40 金本三夢40 佃花音37 金本大夢
36 和泉初音36 山内優歩35 山内美
空34 奥田あさひ31 河野美紅30 水
越友香30 岩成海28 神山周28 甚野
ひな28 山内星徳27 木村理仁26 大
土井穂賀25 大内悠聖25 奥田南海25
古川和佳25 大土井楓賀24 西井萌
24 湊結子24 絹本奈緒23 大内峻聖
23 西井颯一朗23 古川愛佳23 吉田
彩良23 楓まい22 古川治親22 村垣
夏南22 竹下椋香21 仲井心琴21 池
田優花20 楓陸20 辻尾菜々20 福田
陸人20 眞井夏希20

猛スピードばく進中(PERFECT)

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ページ以上進んだ生徒)

田中章太郎79 緒方あいこ66 徳永頼
樹40 高津侑良31 中村結葉31 大上
航正30 西井萌29 三門楓太27 辻翔
太23 有田こころ21 西村美希21 中
村恒太20

フラッシュ暗算合格者

(1月20日までの1ヶ月間)

三段 吉見優里
二段 久保田莉央
初段 河野美紅 古川愛佳
1級 文沢駿介 湯浅彩乃
2級 絹本奈緒
3級 加地世菜 甚野ひな
4級 国永紘資 北尾明日希 田中歩
竹下綾音 堀内俊孝
5級 兼松健介
6級 入口寛都 森田航平
9級 判田翔汰朗 森亮大
10級 判田翔汰朗 藤原茉央

テレビについて

先月の塾報で、2本のテレビ番組についてお知らせを致しました。一つは大晦日の番組で、もう一つは1月15日か22日の放送予定でしたが、延期になって1月29日放送との連絡が来ています。10ch、夕方のかんさい情報ネットten.という番組です。

今月20日、ある番組でデヴィ夫人が出演者の女性を殴り、暴行罪で訴えられるという報道が流れました。まだ一報の段階なので詳細はあまり報道されていませんが、スタッフにデヴィ夫人が怒るような状況に持っていくように指示をされた出演者がそのように振る舞い、デヴィ夫人が暴行に及んだというものです。暴行する件まで台本通りかどうかは知りませんが、いかにも、という気持ちになりました。

実は塾報でご案内致しました昨年末の番組でも同様のことがあったのです。

番組の前半部分で星の郷教室の生徒たち数名が出演し、後半で私の家族が別のコーナーで出演しました。

それぞれのコーナーで、いかにもテレビ的な作り方がなされて、視聴者に誤解を与える内容になっていました。

後半部分の詳細は、当教室のホームページ「アラカルト」欄に書きましたが、前半部分につきましては、生徒たちの人権に関わることに発展する可能性もあることから、今の時点では触れることは控えておきます。

撮影のために旧教室をお貸ししましたが、動かした備品は元通りになっておらず、撮影に使ったお菓子の食べかすは机の上に散乱し、エアコンのスイッチはONのままだったと言え、どのようなスタンスで番組作りがなされていたか的一端をお知り頂けるのではないかと思います。

気持ちよく撮影に協力してくれた生徒の皆さんや保護者の皆様にはとても嫌な思いをさせてしまって本当に申し訳なく思っています。

今、テレビ局・番組製作会社と善後策の話し合いが続いております。

つい先日、東京のテレビ局から当教室の生徒に出演依頼がありました。スタジオ収録の日程が1月下旬の水曜日、午後3時からだと言います。学校を休んでまで協力はできませんから即座にお断りしました。

前述の番組と今回の依頼。マスコミの姿勢に同じにおいがしています。

さて、優先順位を間違えてしまうと考えたしてどうなっていくのでしょうか。

学校よりもテレビ撮影を尊重すると子どもたちには学校よりも大切なものがあるという意識が芽生えます。もちろん、時と場合によっては学校よりも大切なものはあって、だから公欠や出席猶予といった制度が準備されています。つい先日も集団食中毒を発症した静岡県浜松市では学校閉鎖が相次ぎました。影響をより少なくとどめるためにとった措置です。

しかし、少なくとも我々のような一般人にとって、テレビ撮影が学校よりも優先することはあり得ません。

親の仕事の都合にあわせて、学校や幼稚園を休ませて子どもをテーマパークに連れて行ったら将来どうなるか、という話を塾報に書いたことがあります。「自分で進んで勉強しない」「意欲がない」「良い成績を取りたいという希望を持っているが、踏ん張りがきかない」などなど愚痴をあげればきりがないほどの文言がならびますが、これらの根本は優先順位の違いから始まっていることが多いものです。

理屈ではなく、感覚的に感じ取る年

少期にこんな経験をすれば影響が大きいのは当然で、大きくなってから刷り込まれた情報をただすには周囲の大人に相当な覚悟が必要です。

「おなかが痛いから学校を休ませる」のではなく「おなかの痛みが治ったら学校に行かせる」というスタンスで子どもに接し続けると（かなりの無理をしてでも学校に行かせるという意味ではありません）、困難な状況に接したときでもあきらめずに、わずかな光を信じて切り開いていくという基本的な姿勢を生み出す経験を子どもに積みさせることになります。

お正月、イオンの「0円のしちゃいますキャンペーン」の列に私は長男と並びました。年末年始、全国のイオンで買い物をした分をお返ししますというキャンペーンです。何十人かに一人当たるといって行きますと、長蛇の列。数十分並んだ後、ようやく係の方の前にたどり着きました。

カウンターでは、5名の店員さんがレシートの確認作業をしています。隣から大きな声が聞こえるので目をやると、ベビーカーを押した若い夫婦が初老の確認係を罵倒しています。事情はわかりませんが、非は確認係にあるようです。長い列に並んだ直後ということもあって、かなり気が立ってのことでしょう。

最初は、男親が確認係を難じていました。かなりきつい口調です。確認係は頭を下げ続けますが、男親は頭越しに確認係を別の人間に代えるよう、要求しています。

次に横で見ていた女親が口を開きました。旦那さんの主張を一切無視して、「早くしてちょーだい。長い間待たせやがって！！」とソプラノ調でまくし立てました。

私は、いよいよ旦那さんをなだめ始

めるかと期待を込めて動き始めた口許を見ましたが、まったく逆でした。

悲しいのは、罵倒している両親の顔を全く無表情で見つめるベビーカーの子どもの存在です。

この子どもには、何か不都合なことがあれば、相手の年齢や立場、周りの状況などを全く一顧だにせず、まくし立てて抗議することが、ふつうのことだと深く刷り込まれたことでしょう。

ことは、命に関わることや危害が増えらるようなことではありません。運が良ければ、すべてタダにしてもらえるとというスーパーの抽選会でのことです。

私が幸運だったのは、息子の発案でレシートの綴りを2つに分けたことでした。騒動場所の至近距離にいる私とは少し離れた場所で、息子は確認係が押す電卓の数字と、自分が並んでいる間におそらく数十回は繰り返したであろう計算の答が一致するかという一点だけに集中していたようで、騒動にはまったく気づかなかったようです。

雨が降ると出席率が下がります。自転車通塾の人でも歩かなければなりませんし、そもそも気分が乗らないこともあるでしょう。

その一方で、雨が降っても、遠くから何食わぬ顔で傘を差しながら歩いてくる人がいます。

オギャーと生まれた赤ん坊が、雨が降る・降らないでさまざまに心境が変わることはありません。ということは成長するにつれて「雨」→「うっとうしい」→「気分が乗らない」→「休もう」という流れをどこかで学習しているのです。

雨が降れば、その中でどのように行動すれば良いかを考えて実行する思考にはその後の可能性が広がりますが、

雨が降ったことで欠席すると、その先に可能性はありません。

教育産業の宣伝では、よく「子どもたちの可能性を見つける」云々というものをみかけますが、可能性はもともとどこかに隠れていて発見されるものではありません。可能性は、何もないところに創り出すものです。だから、可能性を創り出すきっかけを失ってはいけないのです。

きっかけは「やる気スイッチ」と言い換えることもできます。巷にはスイッチを押してくれるところもあるようです。どこまで過保護にすれば気が済むのか是非尋ねてみたいと思いますが、それは余談。

赤ちゃんは「やる気スイッチ」のかたまりです。最初は誰にもたくさん準備されています。それが、成長するにつれてどんどん失われていくのです。自分から捨てるものもあれば、周囲の働きかけでなくなってしまったものもあります。

しかし、数は減っていても実は残っているスイッチの先につながる線の本数は増えています。これを成長と言い、一つのスイッチがONになることで複数のことが好循環になります。

逆に線の本数が減っていくのを老化と言います。この老化は実年齢に沿うものではなく精神的なことを言います。精神的老化は、実年齢よりも早く進んでしまうものです。

生徒たちが当教室で過ごす時間は、スイッチの先につながる線を増やし、強化していく時間です。

さらにそろばんや暗算の技術を磨きながら、計算力にとどまらない可能性を創り出していく時間です。

そして、さらに可能性が新たな可能性を創り出す時間です。

有意義な時間を共有しましょう。